

令和6年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そして、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	---

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 雨宮 靖子

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の学力の向上を図るとともに、達成感や自己肯定感を育む。
	2 前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。
	3 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。
	4 多忙化の改善を図り、効率的な学校運営を図れるようにする。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			
本年度の重点目標			年度末評価(2月14日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の学力の向上を図るとともに、達成感や自己肯定感を育む。	合理的配慮を踏まえた個別の教育支援計画および個別の指導計画を作成し、適切な評価を行い、それらを活用しながら指導の改善を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
		児童生徒の実態・教育環境に応じて、指導法やICT等教材の研修会やICT等教材の利活用をとおして、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、達成感や自己肯定感を育む。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
2	前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。	保護者や前籍校、病院、関係機関等との連携をさらに深め、児童生徒の教育の充実に努める。また、学校として情報を共有し、組織的な取組を行うとともに児童生徒の支援の充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
		教育相談、訪問支援、学校見学、研修支援等を適切かつ必要に応じて実施し、児童生徒の支援の充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
3	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	基本的生活習慣の確立と自立心の育成に努めるとともに、人との関りを通してより良い人間関係の形成を図る。また、児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を実践し、その充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
4	多忙化の改善を図り、効率的な学校運営を図れるようにする。	児童生徒、保護者、関係機関等との対応における時間外勤務の振り替えを適切に行うとともに定時退校日に関するホワイトボードを有効活用し定時退校日の徹底を図ることで、職員が多忙化、多忙感の解消に努める。	教職員アンケートによる検証(満足度80%)

学校関係者評価	
実施日 (令和7年3月5日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から、児童生徒にとって、学校が安心できる場所であることがわかる。大人・教職員との信頼関係が築かれている様子が高く評価できる。 児童生徒の学習に対するニーズを具体的に把握し、授業内容・方法に反映されることを期待している。 ICT活用に関しては、児童生徒の情報活用能力の実態とあわせて、より有効的な活用方法が検討されることが望ましい。転籍後のことを考えると、地域の学校におけるICT活用状況を知る機会があるとよいと考えられる。 特性が強く指導が難しい児童生徒や子どもが多い中、子どもを理解しより適切な対応ができていていると考える。ICTの教育という新しい分野を教えることは大変だと思うが、より良い試行を重ね、前に進まれていると感じた。子ども達が社会で使えるスキルを身につけられると、子どもたちが生きていく自信になると思う。
4	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が児童生徒に丁寧に関わり、教育支援ニーズの把握に努めている様子がうかがえる。 教職員間の情報共有や連携の課題について、より具体的な検討が必要である。 保護者との連携に関わり、児童生徒の日々の様子に関する保護者への情報提供の充実にむけた改善が望まれる。 センター的機能としての役割を積極的に実施している様子がうかがえる。ぜひ、引き続き地域の学校における実態把握と支援ニーズの検討を行っていただきたい。 学習の場が多様化する中で、子供達がより良く学ぶ方法が問われていると思う。マンパワーなどは限られているが、子どもたちの将来のため、格差がつかないように、もしくは個人の能力が最大限引き出せるような方法を考えなければならないと思う。
4	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の努力により、児童生徒にとって必要である信頼できる他者の存在、関わりの機会が提供されている様子がうかがえる。 進路指導においては、先例や先輩の姿の紹介が継続されることが望ましい。 いじめられた場合だけでなく、困ったときに適切な方法で他者に相談できるスキルを身に付けていけるような日頃の教育支援が望まれる。 富士見支援学校では例年、いじめが全くなく素晴らしい人間形成ができていると思う。自己肯定感の低い子どもたちが自信をつけられるような関わりをしているのではないかと思う。
4	<ul style="list-style-type: none"> 教材等の情報共有システム(学校内外)の構築等により、特に若手教員の育成につながる対応も今後の課題として検討してほしい。 多忙な業務に対して様々な工夫をしていると思う。無駄な時間も私は有用と思う時もある。現在のマンパワーを考えると適切な方向性に進んでいると思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。